

# 2018 年度事業計画（大学）

## 1. 基本方針

本学の教育理念は「リベラルアーツ教育」、「グローバル教育」、「キャリア教育」を三本の柱とし、「リベラルアーツ教育」においては、キリスト教に立脚した人格教育により冷静な判断力を備えた「ぶれない個」を育む。「グローバル教育」においては、自己の意思を明確に表現し積極的に討論できる論理的思考力を涵養し、それを積極的に伝達し得る言語力を養成し、海外研修などを通して国際感覚を取得する。「キャリア教育」においては、女性の全生涯にわたって活躍できるライフキャリア概念を構築し、地域社会並びに国際社会に貢献できる女性の育成を目指す。

日本私立学校振興・共済事業団は、「平成 28 年度私立大学・短期大学等入学志願動向」について、「入学定員 800 人以上の私立大学では定員超過を起こし、入学定員 800 人未満の私立大学では 72%が定員割れを起こしている」と公表した。本学においても 2012 年度の大学改組以来、国際教養学科においては定員割れが恒常化し、年度を追うごとに一層厳しい状況が続いてきた。人間生活学部においても少子化及び他大学での同系列学科設置の影響などからますます厳しくなり、本学は全学的な危機に直面してきた。

このような状況を脱却するために、日本における女子教育の現代的ニーズに的確に応えるべく法人・大学が一体となって大学改革に取り組み、2018 年度から新体制でスタート出来るところまで改革を進めることが出来た。即ち、「広島女学院ならではのライフキャリア教育」へ舵を切り、2018 年 4 月より、2 学部 5 学科に再編し、女性の一生を視野に入れたプロジェクトである。人間への理解を深める「人文学部」と女性の一生の支えとなる資格取得を支援する「人間生活学部」を充実させることによって、“学問”と“実践”の両方を学ぶことが出来るような教育体制の実現を目指すものである。さらに女性の一生をサポートするエンパワーメントセンターの充実も視野に入れる。

共学化が進む中、「本学の女子教育に掛ける情熱と使命」を理解していただくために広報に全学を挙げて取り組み、入試に向けても広報戦略を刷新し、2018 年度には危機を打開する方向性を生み出すべく努力を続ける。

## 2. 具体的アクション

第 2 次中期計画 (行動計画)	2018 年度事業計画	目標達成のための手段等	具体的な目標（数値目標）
(5) 諸活動に関する方針の履行 カ 財政の健全化 a. 入学定員の確保  ウ 教育研究等環境の整備 ア 学生支援 イ 教員の資質向上 b. 教員の資質向上（FD活動）の推進	<b>【大学全体】</b> ○改組後の定員確保の確立 ・改組元年にあたる 2018 年度は、安定した入学定員確保ができるように入試制度、広報活動（広報媒体の作成、高校訪問、オープンキャンパス等）の継続的見直しを行う。  ○キャンパスの活性化 ・正門周辺等の施設整備に加え事務部門の見直しを行い、学内配置場所の最終案を策定する。 ・あやめ祭の活性化を図る。  ○教育理念の実現 ・理念に基づいた教育を推進するためにFD活動をより活性化させる必要がある。そのためにFD研修のあり方を見直す。	・2018 年度入試において初めての試みとして全学科で入試形態ごとに数値を立てて目標管理を行った。この結果を総括した上で、入試委員会を中心に I R 委員会、広報委員会、内部質保証委員会、全学教授会などを通して 2019 年度の活動のあり方を検討・協議、意思決定し、それを着実に実行する。 ・高大接続協定校との連携を強化する。  ・学生、教職員の利便性を考慮しつつ、キャンパスの活性化につながるような事務部門の学内配置場所の最終案を策定する。 ・あやめ祭実行委員会の予算を増額するとともに、実行委員会主導でイベントの充実を図る。また、必要に応じ、学生課が支援する。 ・従来の学外講師による研修だけでなく、FD委員会が主導して学内の身近で具体的な事例を対象とした教育改善や授業改善に役立つディスカッションスタイルの研修も取り入れる。	・各学部、学科の入学定員を充足し、最終的に入学定員 330 名を確保する。 ・2018 年度内に、共通テストが導入されることへの対策を検討し、一定の方策を提示する。  ・2018 年度内に策定する。  ・2017 年度に比べて、模擬店数の増加、来場者数の増加をめざす。 ・年度内に少なくとも 1 回は左記のスタイルのFD研修会を実施する。
(5) 諸活動に関する方針の履行 イ 教員組織の編成方針の策定	<b>【教員組織編成】</b> ○改組に伴う教員組織の確立 ・大学経営の安定化と教育資源の適正な分配のために改組の完成年度（2020 年度）以降における教員組織のあり方を検討し、学部、学科及び共通教育部門の適正教員数を定める。	・大学将来計画委員会における十分な協議を経て、全学人事委員会、大学評議会で検討し、適正な教員数を理事会に提案する。	・2018 年度内に実施する。
(4) 内部質保証の実質化	<b>【大学運営】</b>		

<p>ア 内部質保証PDC Aサイクルの確立</p> <p>(5) 諸活動に関する方針 の履行 オ 管理運営体制の整備</p>	<p>○認証評価への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度大学基準協会による認証評価（第3期）への適切な対応を行う。</li> </ul> <p>○内部質保証のしくみの着実な運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度に創設された内部質保証のしくみを有効に使用してPDCAサイクルが機能する体制を確実なものにし、大学運営の有効なツールにするための基礎を築く。</li> </ul> <p>○全学教授会の適正な運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学教授会の適正な運用することにより教員の一体感を醸成する。</li> </ul> <p>○改組に伴う校務分掌の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改組の現状を考慮しつつ、適正な校務分掌となるように見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去5年間の自己点検・評価に基づいた報告書を作成し、自己点検・評価委員会が中心となって十分な準備を行う。</li> <li>・内部質保証委員会で十分な検討と議論を行い、事案内容に応じて関係する部署、委員会、学内会議との連携も図り、内部質保証を実行する。</li> <li>・学長、副学長、学部長が主導で全学教授会の円滑な運営にあたることで、学部間・部門間の温度差を解消し、迅速で確実な意思統一と情報共有を図る。</li> <li>・2018年度より教員は、人文学部、人間生活学部、共通教育部門のいずれかの所属となるため、教員数と各校務のバランスが適正になるように見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度に実施される大学基準協会による認証評価において不適合を受けない。</li> <li>・年3回（6月、10月、2月）開催される内部質保証委員会を確実に運用する。</li> <li>・原則月1回開催するとともに、必要に応じて学部教授会を開催する。</li> </ul>
<p>(2) ライフキャリア教育の構築 イ エンパワーメントセンターの機能強化</p> <p>(5) 諸活動に関する方針 の履行 エ 社会連携の推進</p>	<p>【エンパワーメント活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の一生をサポートするエンパワーメントセンターの充実をはかり、卒業生が生涯にわたって大学と関わりを持ちながらライフキャリアを築いていける体制を強化する</li> <li>・広島経済同友会との連携事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンパワーメントセンターにスタッフを置き、キャリア構築支援事業の展開とリカレント教育事業の策定を目指す。</li> <li>・「サーロー節子氏講演会」の実施</li> <li>・「卒業生の集い」実施</li> <li>・キャリア・カウンセリング実施</li> <li>・「転職・再就職セミナー」実施</li> <li>・新カリにおける修了証プログラムの策定</li> <li>・ワールド・ビジョン・ジャパンの協力によるエンパワーメントセンター提供授業（2018年度後期2単位）：「ベトナムスタディ・ツアー」の実施</li> <li>・学長の所属する「まちづくり委員会」「ひとづくり委員会」との協力体制による講演会等。</li> <li>・新カリの教育課程についての意見交換会の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度内に実施する。</li> <li>・11月23日開催。（大学主催。於：大学砂本記念講堂）</li> <li>・同窓会ホームカミングデー、学院報での告知により、参加者を100名程度に増やす。</li> <li>・有資格者の雇用が実現した場合、概ね毎土曜日の実施とする。</li> <li>・学外講師によるセミナーを実施する。</li> <li>・本学独自プログラムとして広報に活用する。</li> </ul>
<p>(5) 諸活動に関する方針 の履行 ア 学生支援</p>	<p>【国際教養学部・国際教養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援の強化</li> <li>・海外研修・海外留学の実績を挙げるとともに、新学科との連携を図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次ごとのキャリア支援計画を策定し、キャリア支援課に適宜。ガイダンス、個別相談等の協力を得ながら、段階的、計画的に就職支援を行う。</li> <li>・ひきつづき、就職支援を学科会の審議事項に掲げ、学科教員全体で情報を共有し、さらなる就職率のアップを目指すとともに、質の高い就職実績を目指す。</li> <li>・改組にともない、海外研修のうち、GSEの海外研修は国際英語学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率・実就職率ともに、2017年度の数値を上回る。</li> <li>・7月に行っていた海外研修の保護者説明会を、6月末ま</li> </ul>

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業延期者への対応等、学生の学修支援をさらに強化する</li> <li>少人数教育の徹底</li> </ul>	<p>科の1年生に移行し、環境、公共政策、アジア・アフリカ、平和学、アメリカビジネスの各海外研修の科目を閉じ、生活デザイン学科の地域デザインの海外FWに移行する。したがって、今までの本学科で行ってきた、海外研修のノウハウ（同意書の作成、危機管理、保護者説明会、海外FW報告会、海外FW説明会、募集、JASSOへの申請等）を、新学科に引き継いでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学科レベル、メジャーレベル、教員レベルで企業訪問先をさらに検討し、新学科の就職など、将来も視野に入れた質の高い就職先を開拓する。</li> <li>交換留学の送り出し学生数を2017年度実績以上にする。</li> <li>最後の一人が卒業するまで、丁寧なケアを行う。そのために、単位未充足の学生の状況を把握し、授業の開講不開講、単位互換を丁寧に行いつつ、チューターのみならず、学科として、学修指導を厚く行っていく。</li> <li>ゼミ選びのためのゼミ説明、ゼミ面談、その結果としてのゼミ分けを丁寧に行い、学生の希望に沿いながらも、同時にゼミの人数を適切な数に収める。</li> </ul>	<p>では開催し、同意書の内容の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2017年の交換留学送り出し学生数4名を上回る。</li> <li>学生の欠席状況や単位取得状況に関して、学科会で、毎回、学生関連事項として取り上げ、学科教員間での情報の共有を密にし、個々の学生の状況に応じて適切な対応を行う。</li> <li>各ゼミ生の数を、最大でも15名に抑える。</li> </ul>
<p>(1) 教育理念の実現</p> <p>(2) ライフキャリア教育の構築</p> <p>(3) 全学改組の着実な実行</p> <p>(5) 諸活動に関する方針の履行</p>	<p><b>【人文学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ぶれない個」を形成する教育の確立</li> <li>「多様な価値観・生き方」を形成する教育の確立</li> <li>「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立</li> <li>一生涯を視野に入れた教育プログラムを構築し、自らライフキャリアを築いていくための基礎力を育成する。</li> <li>2021年度の完成に向けて教育課程を着実に履行し、大学及び各学部各学科の教育目標を確実に達成</li> <li>教育研究の質向上に絶えず努め、顕著な学習成果を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学基礎科目の「キャリアプランニング」「初年次セミナー」「キリスト教の時間」を通し、「ぶれない個」「多様な価値観・生き方」「寛容と協働の精神」の形成に欠かせない本学の歴史、理念を学ばせる。</li> <li>人文学部必修科目の「キャリア・スタディ・プログラム」の授業を通し、一生涯を視野に入れたキャリアプランの支援を行う。</li> <li>人文学部必修科目の「人文学入門」を通し、人文学についての理解を深める。</li> <li>アクティブ・ラーニング、少人数教育を通し、顕著な学習成果を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「初年次セミナー」「キャリア・スタディ・プログラム」のルーブリックの3つの到達目標について、最後の回の時点での自己評価がそれぞれ平均2.5以上獲得できるようにする。</li> <li>「人文学入門」の授業評価アンケートの満足度「そう思う」「強くそう思う」の合計が75%以上獲得できるようにする。</li> <li>「初年次セミナー」は、顕著な学習成果を達成するため、少人数で実施する。今年度は、日本文化学科2分級、国際英語学科英語文化コース3分級、GSEコース1分級。</li> </ul>
<p>(1) 教育理念の実現</p>	<p><b>【国際英語学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ぶれない個」を形成する教育の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週1回の1対1の指導を実施し、学生の情報を学内ポータルで共有する。</li> <li>基礎科目（英語文化コースの学生はCEFR [ヨーロッパ言語共通参照枠] に準拠した20段階のStep-up Englishの導入)</li> <li>ライフキャリア科目（GSEコースの学生は英語で行う授業、英語文化コースの学生は「外国語（英語）I・II」の履修を強く勧める)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション 面接（前期×1回、後期×1回） 1年生に対する週1回の1対1指導（全教員4月～8月、週1回、10分～）</li> <li>1、2年次1週間につき45分×2回の授業</li> <li>2018年度のライフキャリア科目（全科目：週1回90分） GSE：（前期）World Literature I；（後期）Women in Christianity, Intercultural Communication I</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多様な価値観・生き方」を形成する教育の確立</li> <li>・「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ curriculum map 「ぶれない個」にある1年生の授業の専門科目（2年生以上の科目も複数提供：curriculum map 参照）</li> <li>・ 徹底的な海外研修の導入</li> <li>・ 「海外研修事前指導」の実施</li> <li>・ GSE コース：ほぼすべての授業をネイティブが担当 英語文化コース：多くのスキル科目をネイティブが担当</li> <li>・ アクティブ・ラーニングと協働学修を重視</li> <li>・ 学科内では全教員及び学生が英語で挨拶</li> <li>・ 日本人教員は授業中にできるだけ英語を使用</li> <li>・ GSE すべての授業が少人数クラスで活発に英語を使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018年度の専門科目（全科目：週1回90分） GSE：（前期）人文学入門, English Writing Composition, Discussion &amp; Presentation；（後期）キャリア・スタディ・プログラム I, Academic Writing in English, Research &amp; Debate 英語文化：（前期）人文学入門、英文法 I；（後期）キャリア・スタディ・プログラム I、英文法 II、英語学入門</li> <li>・ 最大4回の研修機会を提供 例）GSE 1年次の Global Village Field Experience I・II（10～14日間、8月・9月） 下記のプログラムの準備として、1年次末に原則全員参加の海外研修事前指導を設定（2週間） 2年次以降のプログラム：海外研修 I、海外研修 II、海外インターンシップ、交換留学</li> <li>・ プログラム実施にあたっての準備計画 オリエンテーションでの説明・資料配布（4月） 1年生に対する週1回の1対1指導での個別説明（4月～8月、週1回、10分～） 1年生対象の留学プログラムにて留学プログラムの詳細説明（7月） 後期履修登録で正式に参加登録（9月） 海外渡航の事前指導（参加必須）（3～4回） 2週間海外研修（USA）（2月）</li> <li>・ 2018年度にネイティブが担当する科目 （GSE）基礎英語 I・II、外国語英語 I・II、English Writing Composition, Discussion &amp; Presentation, キャリア・スタディ・プログラム I, Academic Writing in English, Research &amp; Debate, Global Village Field Experience I・II、Introduction to Global Studies, Issues in the Modern World, Introduction to Nature &amp; the Environment （英語文化）基礎英語 I・II、外国語英語 I・II、オーラル・コミュニケーション I・II、ライティング I・II</li> <li>・ 2018年4月開始 全員</li> <li>・ 2018年4月開始 全員</li> <li>・ 2018年4月開始 全員</li> <li>・ 全クラス10名前後</li> </ul>
--	--	---	--

<p>(2) ライフキャリア教育の構築</p> <p>(3) 全学改組の着実な履行</p> <p>(5) 諸活動に関する方針の履行</p>	<p>・一生涯を視野に入れた教育プログラムを構築し、自らライフキャリアを築いていくための基礎力を育成する。</p> <p>・2021年度の完成に向けて教育課程を着実に履行し、大学及び各学部各学科の教育目標を確実に達成する。</p> <p>・教育研究の質向上に絶えず努め、顕著な学習成果を達成する。</p>	<p>・英語文化：少人数でのコミュニケーション関連科目</p> <p>・1年次後期～2年次（1.5カ年）のキャリア・スタディ・プログラムCSPの導入</p> <p>・GSEのライフキャリア科目は英語で実施</p> <p>・TOEIC test 導入：TOEICを全員に受けさせ、TOEICの出題形式になじませる。</p> <p>・児童英語教員養成課程導入</p> <p>・定期的な学科会の実施</p> <p>・少人数教育とアクティブ・ラーニングの徹底</p> <p>・事務局各部署とのより密な連携</p> <p>・ポータルを活用した学生情報の共有強化</p> <p>・授業評価をもとにPDCAサイクルの徹底</p> <p>・4年間にわたるゼミ形式のプログラムで学生と教員との密なコミュニケーションを確保</p>	<p>・基礎英語（週2回）Oral Communication（週1回）10名前後</p> <p>・オリエンテーションでの説明・資料配布（4月） 1年生に対する週1回の1対1指導で個別に説明（4月～8月、週1回、10分～） 7つのキャリアルートから選択（前期末） CSP1開始（週1回の90分授業、9月～1月）（1クラスあたり10人前後） 2年次のCSP2 &amp; CSP3, 及び3年次のインターンシップへ接続</p> <p>・2018年度のライフキャリア科目（全科目：週1回90分） GSE：（前期）World Literature I；（後期）Women in Christianity, Intercultural Communication I</p> <p>・1年生は、年2回（5月、1月）；2年生以上、年1回（1月）</p> <p>・2018年度の該当科目 基礎英語I・II、英文法I・II、英語科教育入門</p> <p>・月1回以上</p> <p>・2018年4月開始 全員</p> <p>・2018年4月開始 全員</p> <p>・2018年4月開始 全員</p> <p>・毎学期</p> <p>・1年前期（週1回の1対1指導）；1年前期～2年後期（CSP1, 2, 3）；3年～4年（アカデミックリサーチ1～4）</p>
<p>(1) 教育理念の実現</p>	<p>【日本文化学科】</p> <p>・「ぶれない個」を形成する教育の確立</p> <p>・「多様な価値観・生き方」を形成する教育の確立</p>	<p>・「初年次セミナー」において、大学での学びを進めていくにあたっての基礎力を身に付けさせる。</p> <p>・「キャリア・スタディ・プログラム」で、ワークルールを学ぶことで早い時期に就労のイメージを持たせる。</p> <p>・「キャリア・スタディ・プログラム」で、時事問題に触れることを通して社会へ関心を持たせ、その一員としての自覚を促す。</p>	<p>・分級の各クラス的能力が平均化するように、前期オリエンテーション期間にクラス分けのためのプレイスメントテストを実施する。</p> <p>・ルーブリックの3つの到達目標について、最終回の時点での自己評価が平均2.5以上になるようにする。</p> <p>・教科書の『ワークルール検定初級テキスト』（旬報社）について、授業中に取り上げる箇所は勿論であるが、それ以外も必ず目を通すことを徹底化し、1冊通読させる。</p> <p>・朝日新聞が提供している「時事ワークシート」を毎週取り組ませる。</p> <p>・ルーブリックの3つの到達目標について、最終回の時点での自己評価が平均2.5以上になるようにする。</p>

<p>(2) ライフキャリア教育の構築</p> <p>(3) 全学改組の着実な履行</p> <p>(5) 諸活動に関する方針の履行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立</li> <li>・一生涯を視野に入れた教育プログラムを構築し、自らライフキャリアを築いていくための基礎力を育成する</li> <li>・2021年度の完成に向けて教育課程を着実に履行し、大学及び各学部各学科の教育目標を確実に達成</li> <li>・教育研究の質向上に絶えず努め、顕著な学習成果を達成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々や外国人学生との交流を大切にし、実際に行事に参加することによって、協働の喜びを体感させる。</li> <li>・自らライフキャリアを築くための基礎力として、学生一人一人の主体性を伸ばす。</li> <li>・月一回、学科会を開催し問題点を共有することでPDCAサイクルを機能させる。</li> <li>・チューターが、学生の履修状況について単位数だけでなくGPAも必ず確認し、適宜指導を行う。</li> <li>・教員ごとに担当科目の振り返りを行い学科においても内容を周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教員2名引率の下、5月に安芸太田町で開催される花田植に参加することを奨励する。</li> <li>・2月に本学へ研修予定の厦門理工学院の学生に対して、日本文化の紹介をしたり、平和公園や宮島の案内をしたりすることを奨励する。</li> <li>・前期オリエンテーション期間の中で、「オープンキャンパス委員」「地域文化交流委員」「留学生・研修生交流委員」「大学チャペル委員」を募り、また「オリエンテーションキャンプリーダー」「あやめ祭実行委員」についても紹介することを通して、学科の中の半数以上の学生が何らかの委員を担うようにする。</li> <li>・チューター面接の内容や、日常での気づきをポータルに上げ、学生の成長が分かるよう記録を徹底化する。</li> <li>・学科会の中で、新学科科目についてはそれぞれの担当教員が現状を報告することとし、問題点があればその都度、改善案を検討する。</li> <li>・GPAが2.3未満の学生に対しては面談を実施し、適切な助言を行うとともに、必要があればアカデミックサポートセンターや学内カウンセラーとも連携をとる。</li> <li>・「授業改善目標」の内容について、学科会でも共有を行う。</li> </ul>
<p>(1) 教育理念の実現</p> <p>(2) ライフキャリア教育の構築</p> <p>(3) 全学改組の着実な履行</p> <p>(5) 諸活動に関する方針の履行</p> <p>エ 社会連携の推進</p>	<p>【人間生活学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぶれない個」を形成する教育の確立</li> <li>・「多様な価値観・生き方」を形成する教育の確立</li> <li>・「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立</li> <li>・一生涯を視野に入れた教育プログラムを構築し、自らライフキャリアを築いていくための基礎力を育成する</li> <li>・2021年度の完成に向けて教育課程を着実に履行し、大学及び各学部各学科の教育目標を確実に達成</li> <li>・教育研究の質向上に絶えず努め、顕著な学習成果を達成する</li> <li>・高大連携、高大接続の推進</li> <li>・地域連携活動の推進により、大学と地域社会とのつながりを強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの一体性・整合性を確保するために、教育成果の可視化に努める。カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーによる、教育課程の関連性・体系性を可視化するとともに、ルーブリック評価による評価基準の可視化を行い、目標と現状のギャップを測定し、既存のカリキュラムや教育手法等を行う。教育手法としては、アクティブ・ラーニングを導入する。</li> <li>・高大連携活動等を実施し、入学定員の確保に努める。多様な入学者に合わせた教育プログラムを立案し、実行するとともに、相談支援体制を充実させる。</li> <li>・地域社会との連携活動に積極的に取り組み、その成果を大学ホームページ等で公開する。地域社会との交流を盛んにし、学生の卒業後の就職を見据え、学生が主体的に自身のライフキャリアについて考えることのできる機会を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半期に一回、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーと、ルーブリック評価との比較検討を行う。各教員がアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を半期に1科目以上実施する。</li> <li>・高等学校等への出前授業の実施(半期に数回程度)。学修に関する学生への個別指導の実施(必要な学生に対して月に1回程度以上)。</li> <li>・毎月1回、ホームページで地域連携活動の成果を報告する。</li> </ul>
	<p>【生活デザイン・建築学科】</p> <p>【生活デザイン学科】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈生活デザイン学科〉〈生活デザイン・建築学科〉 実習の充実</li> <li>◆CP環境の整備(学生の強い要望による)を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフィア1号館6F第1造形実習室のデザイン専用PC</li> </ul>

<p>(1) 教育理念の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぶれない個」を形成する教育の確立</li>   <li>・「多様な価値観・生き方」を形成する教育の確立</li>   <li>・「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立</li> </ul>	<p>◆上記に伴い、生活デザイン学科「建築CADⅠ」「建築CADⅡ」(2年前期、後期)では、社会のニーズに合わせて従来のCADソフトに加えてBIM (Building Information Modeling、3次元の建物のデジタルモデルに、コストや仕上げ、管理情報などの属性データを追加した建築物のデータベース、既にゼネコン等で実務での採用が開始)によるCAD教育の実施を予定している。このことにより、さらに卒業設計の広島8大学卒業設計展への上位入賞、デザインコンペティションの入賞、建築系企業への就職率向上を目差す。</p> <p>・〈生活デザイン・建築学科〉〈生活デザイン学科〉学会のさらなる充実</p> <p>生活デザイン・建築学科では2012年度～学生の自主的な学会活動を実施。2018年度は、内容をさらに精査し、学生のための学会活動の充実を図る。</p> <p>以下の部門により構成。</p> <p>◆執行部：全体のとりまとめ(学会全体の事業・予算計画策定、学会役員勧誘業務、学会グッズ企画など)</p> <p>◆総会・講演会運営部：6月総会、11月講演会の運営</p> <p>◆チャレンジ活動支援運営部：学会員が企画するチャレンジ活動の支援(助成金の管理、11月中間報告会・6月最終報告会の運営、6月～7月成果展示の企画運営)</p> <p>◆学会誌編集部：学会誌の企画・編集(年2回)、3月～4月学生優秀作品集の編集</p> <p>学会員のために学会費を有効に活用するため、「チャレンジ活動支援」や学生のデザインによる「学会誌発行」(大学協力会費より)、「学会グッズのデザイン」等を企画。</p> <p>・〈生活デザイン学科〉4つのデザイン(領域)の可能な地域社会・地場企業等との協働連携</p> <p>現時点での2018年度プロジェクトは以下の通り、その他新企画を模索中。</p> <p>◆西条鶴新酒ラベルデザインコンペ【生活プロデュース】</p> <p>東広島市の酒蔵の新酒ラベルデザインの依頼を受け、学内コンペを開催。2017年度は、最優秀作品が実施された(新聞2社に掲載)。</p> <p>◆アトムワークス農作業着コラボプロジェクト【被服・ファッションデザイン】</p> <p>女性向け農作業着ブランド『nomodo』の新商品開発プロジェクト。2017年度～実施。商品開発に際し、ハーストリープラスと共にマーケティング調査を開始。学生は、プロジェクトチームを立ちあげ、そのニーズに合う新商品のデザインに取り組み、トータルコーディネートを提案。</p>	<p>およびPCソフト28ヶ所の整備(前期夏休み中に整備を行い、次年度の授業実施に備える)</p> <p>・生活デザイン学会は規約を作成し、生活デザイン・建築学会と協働して学会活動を行う。</p> <p>・好評につき、2019年分も継続。</p> <p>・布のデザイン画がオリジナルで製作されることも決まり、2018年春・秋を目標に量産、全国販売予定。</p>
--------------------	--	---	---

<p>(2) ライフキャリア教育の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一生涯を視野に入れた教育プログラムを構築し、自らライフキャリアを築いていくための基礎力を育成する</li> </ul>	<p>加えて、既存商品をベースに形や色、テキスタイルを変化させた提案を行う。デザインだけでなく機能性やコストパフォーマンス面から改良を重ね、概ねデザインが確定(2017年度広島テレビ放映)。</p> <p>◆ダイワハウス住宅コラボプロジェクト【インテリア・住居・建築デザイン】 ハウスメーカーダイワハウスとのコラボプロジェクトで、2017年度～住宅2階部分の基本設計を実施。</p> <p>◆エキキタプロジェクト【地域デザイン】 JR広島駅新幹線口周辺での地域に関わる人、観光客のためのまちづくりプロジェクト。東区役所の職員と共に、地図の英語化やエキキタ地区を楽しむスイーツラリーを企画。</p> <p>◆フィールドワーク全般【地域デザイン】 大学HPより、地域デザインのフィールドワーク紹介ページへリンク。2017年度～実施。</p> <p>・〈生活デザイン・建築学科〉 3領域関連 資格取得支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「家庭科教職課程勉強会」の実施</li> <li>◆「カラーコーディネーター検定ガイダンス」の実施</li> <li>◆「宅建ガイダンス」の実施</li> <li>◆「住宅・建築業界ガイダンス」の実施</li> <li>◆「二級建築士試験資格対策講座」の実施</li> </ul> <p>◆インテリアプランナーについての説明会（複数の学生野問合せに伴い） 以下、関連科目以外の授業でも資格取得を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「福祉住環境コーディネーター」対策：授業「福祉住環境計画学」において支援、受験を奨励</li> <li>◆「建築積算士補」対策：授業「建築積算」において支援、受験を奨励。</li> <li>◆「カラーコーディネーター検定」対策：授業「色彩情報論」「カラーコーディネート演習」において支援、受験を奨励。</li> </ul> <p>・〈生活デザイン・建築学科〉 就職率の向上、および満足のいく就職先</p> <p>生活デザイン・建築学科の実就職率は86.5%である（2018年3月1日現在）。特にインテリア・建築系はオリンピック等の景気に左右されやすいという事情はあるが、キャリア支援課開催の就職セミナー等に積極的に参加するよう促し、向上していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018年度は、合計2棟（2年生・3年生各1棟）が実際施工・販売される。それに伴い、現場見学会2回実施。学生は、現場見学や竣工した空間体験を行い、図面と実際の空間との差を体感し、写真撮影を行い、今後の設計デザインに生かす。</li> <li>・ 2017年度には学科教員と話し合いの場が設けられ、イベント用のテントのデザインプロジェクト等、今後の展開を模索中。</li> <li>・ 2018年度も引き続き実施し、地域デザインの広報へとつなげる。</li> <li>・ 年20回程度開催</li> <li>・ 年1回開催</li> <li>・ 年に1回開催（2018年度は、春のオリエンテーションで開催決定）</li> <li>・ 年に1回開催（2018年度は、春のオリエンテーションで開催決定）</li> <li>・ 2017年度と同様、合計10回開催。（〈3・4年生対象〉おためし講座1回、〈4年生対象〉本講座8回、〈4年生対象〉試験対策講座説明会1回）</li> <li>・ 2018年度～実施。建築士課程説明会と同時開催。</li> <li>・ 実就職率を2017年度より上げる。</li> <li>・ 広報媒体「学びとお仕事」の作成。各デザイン別に卒業生の仕事内容等を紹介。40万円程度を学科経費から配分する。本学科入試広報としても活用する。</li> </ul>
-------------------------	--	---	--



<p>(3) 全学改組の着実な履行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021 年度の完成に向けて教育課程を着実に履行し、大学及び各学部各学科の教育目標を確実に達成</li> </ul>	<p>地域連携・社会貢献により、地元の特徴や社会問題を学び、自分なりのアプローチの仕方が明確になると考えられる。そこで、地元企業への就業の推進を行う。</p> <p>また離職率を抑えるため、仕事内容が個人の能力に合った満足度の高い職種に従事できるよう指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業設計の充実【インテリア・住居・建築デザイン】 2017 年度も昨年に続き、「広島 8 大学卒業設計展」にて市民賞を受賞した（2 年連続 7 回目の入賞）。本学が安定して入賞者を輩出しているため、建築系のデザイン力のある大学と定評に結びついている。学びの成果である。</li> <li>外部コンペティションへの出品の奨励【各デザイン】 2017 年度の入賞者は、以下の通りである。2018 年度も引続き奨励する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「2017 富山パッケージデザインコンペティション」（公）パッケージデザイン協会賞入賞</li> <li>◆「キルコス国際建築設計コンペティション 2017」入賞、優秀作品展出展</li> <li>◆「第 4 回 石州和紙デザインコンペ」1 次審査を通過、優秀作品展出展</li> </ul> </li> </ul> <p>実習の学びの成果が、入賞・出展に結びついている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「ぐっとずっと。エネルギー住宅作品コンテスト 2017 学生部門」1 次審査を通過</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>〈生活デザイン・建築学科〉〈生活デザイン学科〉 学会誌増刊号として学生優秀作品集の作成、およびその充実 実習・演習の授業を中心とした優秀作品集を作成（以前から作成）。学会誌編集部学生により編集を行い、PC プレゼンテーションスキルの向上を目差す。同時に、高校生への実習内容の説明にも役立つ。</li> <li>定員および目標値を上回る入学者の確保。 2018 年度は 65 名の定員、71 名の目標値を達成できた。2018 年度入試の分析による 2019 年度入試への対策は、以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆改組による対象領域の拡大 生活デザイン・建築学科の 3 領域に、地域デザインが加わることにより、生活を見つめる学びの視野が拡大し、地域デザインの授業「グローバルフィールドワーク」等に見られる英語を生かして社会と関わりたいと本学科学を希望する高校生が増えつつある。地域デザインの特徴を更にアピールして、入学者の確保を行う。 →2019 年度入試から A0 入試、公募制入試において、入学意向調査を実施。入試時の希望するデザインに○印を記入し、その後入学時</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018 年度も入賞を目標として、指導を行う。中間報告会、中間発表会、最終審査会（=口頭試問）各 1 回実施。</li> <li>入賞作品には、学生優秀作品集・大学 HP への掲載、OC において紹介、作品運送費・通信費などの経費の助成を行う。</li> <li>2017 年度版から、学会編集部に加えて実習助手（学会員）も参加し、デザイン・装丁を向上させ、学生の作品制作の意欲の向上を図る。</li> <li>65 名の定員、71 名の目標値を達成。</li> <li>地域デザインの特徴を更にアピールして、入学者の確保を行う。定員 65 名中 1/4 の 16 名の地域デザイン希望が目標。</li> </ul>
-----------------------	---	---	---

<p>(5) 諸活動に関する方針の履行</p>	<p>・教育研究の質向上に絶えず努め、顕著な学習成果を達成する</p>	<p>～在学時～就職時にわたり、希望動向分析の資料とする。</p> <p>◆他大学の同学科の定員増加により、2019年度～入試定員確保が厳しいと予測される。特徴のある本学の学びを効果的に広報する。</p> <p>◆高校訪問の効果的な実施</p> <p>◆学科独自の広報媒体の効果的な配布 「学びとお仕事ガイド」「女性建築士への道」(建築士課程の学び紹介)「学生優秀作品集」「オープンセミナー作品集」「生活デザイン・建築学会誌」「ダイワハウス×広島女学院大学住宅コラボプロジェクト」等</p> <p>・退学者・休学者数 入学定員・目標値は確保出来たものの、依然として入学者の基礎学力の低下は見られる。同時に、休学者が増加(その後退学する傾向にあり、現時点で5名)、退学者の目標値(2名/年)はキープしているが、今後増加すると推定される。チューターが中心となり、学科会で学生の動向の細かな把握と迅速な対応を行うように心掛け、また、健康管理センターやカウンセリングルーム、学生課、教務課との連携も強化してきたが、その要因は、人間関係、経済的理由、進路の変更などと、対応が難しい理由が増えつつある。このことは、入試においてボーダーラインを上げる(基礎学力の基準を上げる)ことだけでは対策にならないと考えられ、当初の目標値71名を下回らない程度に、退学者を増やさない様にチューター指導を徹底する。</p> <p>・オープンセミナーの活用 生活デザイン学科では、4つのデザインの各セミナーを実施。 2018年度～公募制推薦入試においても、オープンセミナーが活用可能となるため、セミナーを通して、学科試験では表れにくい高校生のデザイン能力や個性、適性を引き出し、同時に確実に入試に結びつくように努める。 数日間の具体的授業体験を通して理解できた上での志願選択を高校生等に提供できるため、本学科においては重要な制度である。</p> <p>・オープンセミナー作品集の作成 受講者に配布して、その後の入試に促す。 受講、出願を希望している1・2年高校生への具体的な説明として活用できる。(2013年8月0Sから作成、生活デザイン学科においても引続き実施。) 内容についてはさらに充実させ、質の向上を図る。(授業の一環としての位置付け(単位認定あり)で実習助手により作成)</p>	<p>・現時点では、退学者は休学者数程度に留める。 (生活デザイン・建築学科は2017年度 退学者2名、休学者5名(留学者2名を除く、内1名は除籍へ)、除籍者2名、他に現時点で退学の意向を示している学生1名)</p> <p>・各セミナー受講者10名×4講座(0S入試手続者36名)を目標。 (2017年8月0S受講者36名、0S入試手続者33名)</p> <p>・本学科の「オープンセミナー」の特性を広報するために活用。30万円程度、学科経費からも配分する。</p>
	<p>【管理栄養学科】</p>	<p>・食と健康の専門家としての育成の充実</p>	<p>・資格を活かした就職者数の増加(管理栄養士・栄養士の</p>

<p>(1) 教育理念の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぶれない個」を形成する教育の確立 (ディプロマ・ポリシー) 科学的根拠に基づいた栄養・健康管理の専門知識と技術を身につけ、食と健康の専門家として、確固とした倫理観と実践力をもって、社会貢献をめざすことができる。</li> <li>・「多様な価値観・生き方」を形成する教育の確立 (ディプロマ・ポリシー) 「食」を大切に、「食」を通して病気の人、高齢者、子どもなどあらゆる人に寄り添い、対象者に合わせた栄養・健康管理の実践ができる。</li> <li>・「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立 (ディプロマ・ポリシー) 地域住民や行政、団体と連携して、生活者の目線に立った食育や栄養改善等の実践ができるとともに、食文化の違いを理解、受容し、さまざまな食問題を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 総合演習Ⅰ・Ⅱ(専門家教員が複数名共同で対応)を通して、各専門科目の知識を横断的に結びつけ、社会貢献できる実践力を育てていく。</li> <li>② 臨地実習ガイダンスにおいても、キャリアセンターと連携し、キャリアカウンセラーを講師としてセミナーを実施し、倫理観と実践力を啓発する。</li> <li>③ 給食経営管理臨地実習、公衆栄養学臨地実習、臨床栄養学臨地実習において、臨地実習でしか学修できない課題を学生個々に考えさせ、食と健康の専門家としての自覚を促す。</li> <li>・食を通して、あらゆる人に寄り添い、対象者に合わせた栄養・健康管理の実践教育の充実       <ul style="list-style-type: none"> <li>① 給食経営管理臨地実習、公衆栄養学臨地実習、臨床栄養学臨地実習を通して、病気の人、高齢者、子どもなど対象者に合わせた栄養・健康管理の実践を学修する。</li> <li>② 臨地実習ガイダンスにおいて、実際の現場(保育所、高齢者施設、病院等)の専門家として働いている方々を講師としてセミナーを開催し、対象者に合わせた栄養・健康管理の実践の知識を深める。</li> <li>③ 教職(栄養教諭、家庭)を目指す学生においては、栄養教育実習の実践現場を通して、対象者の現状や課題を発見し、学びを深める。</li> </ul> </li> <li>・地域連携食育セミナー等の活動充実 産学官連携事業の推進:地域住民や行政、団体と連携して、生活者の目線に立った食育や栄養改善等の実践を経験し、食と健康の専門家としての自覚を促す。</li> <li>・管理栄養海外フィールドワークの活動充実 日本と海外の食文化の違いを理解、受容し、大きな視点にたった食と健康の専門家としての自覚を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門を活かした就職割合が管理栄養学科卒業生の70%以上を維持する)</li> <li>・卒業学年アンケートの「4年間の大学生活を通して、ぶれない個をつくることができましたか?」の回答結果について、“とてもそう思う”と“ある程度そう思う”の合算率が管理栄養学科卒業生数の80%以上であることを目標とする。</li> <li>・各臨地実習に参加した学生は、各自の課題に沿った対象者に合わせた栄養・健康管理の実践をまとめ、教員、同級生、下級生にプレゼンテーションできることを目指す。また、質問にも的確な回答ができることを目指す。</li> <li>・栄養教諭、中学校一種・高等学校一種「家庭」への就職者を各1名以上目指す。</li> <li>・卒業学年アンケートの「4年間の大学生活を通して、他の人の価値観や多様性を理解できるようになったと思いますか?」の回答結果について、“とてもそう思う”と“ある程度そう思う”の合算率が管理栄養学科卒業生数の80%以上であることを目標とする。</li> <li>・年1つ以上の産学官連携事業を実施し、実施後の報告会の実施、報告書の作成もしくはパンフレット等を作成し、関係者に配布する。</li> <li>・年1回の管理栄養海外フィールドワークを実施し、帰国後、参加学生による報告会を1回以上実施する。</li> </ul>
<p>(2) ライフキャリア教育の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一生涯を視野に入れた教育プログラムを構築し、自らライフキャリアを築いていくための基礎力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイリス食の会との協同 アイリス食の会を通じて、社会で活躍する先輩と在学生のつながりを強め、女性の一生涯のライフキャリアを考える機会をつくる。</li> <li>・社会で活躍している管理栄養士との交流 臨地実習ガイダンスにおいて、実際の現場(保育所、高齢者施設、病院等)の専門家として働いている方々を講師としてセミナーを開催し、その後の質疑時間をつくり、専門家の方々と学生の交流機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士国家試験受験の意思表示調査の中の「私のための管理栄養士免許取得の意味」において、“管理栄養士免許を取得しようとする思いは「自分の意思」と「親の意思」を加味した場合、どちらの割合が大きいですか?”の回答結果について、「自分の意思」が「親の意思」より上回る学生数が受験を意思表示した学生数の70%以上いることを目標とする。</li> </ul>
<p>(3) 全学改組の着実な履行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度の完成に向けて教育課程を着実に履行し、大学及び各学部各学科の教育目標を確実に達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士国家試験対策のさらなる充実       <ul style="list-style-type: none"> <li>① 専任教員の専門科目の授業後の定期的な小テストを実施する。</li> <li>② 4年次早期からの模擬試験の得点率が低い学生(学習能力向上がみられない学生)に対する帯タイム学習の実施。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士免許の取得率目標を、管理栄養学科卒業生の100%とする。</li> <li>・管理栄養士国家試験受験資格の取得者の目標を、管理栄養学科卒業生の95%以上とする。</li> </ul>

<p>(5) 諸活動に関する方針の履行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究の質向上に絶えず努め、顕著な学習成果を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チューター面談を充実させ、学生の学習能力の問題、日常生活の問題等を早期に把握し、管理栄養学科内で情報共有して対応を協議し、迅速に指導できる体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士国家試験合格率の目標を、管理栄養士国家試験受験者の100%とする。</li> <li>・卒業アンケート調査における卒業生の満足度の向上 卒業学年アンケートの「めざす資格が取得できる」の回答結果について、“とても満足している”と“ある程度満足している”の合算率が管理栄養学科卒業人数の80%以上であることを目標とする。</li> <li>・実就職率100%を目標とする。</li> <li>・退学者0人を目標とする。</li> <li>・休学者は1名以下を目標とする。</li> </ul>
<p>(1) 教育理念の実現</p> <p>(2) ライフキャリア教育の構築</p>	<p>【幼児教育心理学科】</p> <p>【児童教育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぶれない個」を形成する教育の確立</li> <li>・「多様な価値観・生き方」を形成する教育の確立</li> <li>・「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一生涯を視野に入れた教育プログラムを構築し、自らライフキャリアを築いていくための基礎力を育成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぶれない個」「多様な価値観・生き方」「寛容と協働の精神」に係る授業を履修させ、科目の授業単位を確実に修得させるための支援として、面談回数を増やす。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・90%以上の学生が保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になるために、就職に必須の資格や免許を取得できるようにする。 1年生では、初等教育実習Ⅰに参加できる要件を満たすように支援する。 2年生では、保育実習Ⅰに参加できる要件を満たすように支援する。 3年生では、初等教育実習Ⅱ・Ⅲ及び保育実習Ⅱ又はⅢに関して、参加できる要件を満たすように支援する。 4年生では、初等教育実習Ⅱ・Ⅲ及び保育実習Ⅱ又はⅢの単位を修得できるように支援する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアセンターと連携し、1月に就職内定者の4年生から就職に関わるガイダンスを1～3年生に行う。</li> <li>・「子どもチャレンジ・ラボ」の各研究会に学生を参加させ、地域協</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生と2年生では、チューター面談を、4回（4月と6～7月、9月、11月～12月）行い、課題のある学生には随時対応する。 3年生と4年生では、ゼミ担当教員が面談を随時行うが、定期面談も4回（4月と6～7月、9月、11月～12月）実施する。</li> <li>・履修した科目の授業単位修得率100%。</li> <li>・1年生では、初等教育実習Ⅰに関して、所定の単位修得率100%、直前学期の成績平均点数（GPA）が2.3以上の学生は100%。 2年生では、保育実習Ⅰに関して、所定の単位修得率100%、直前の学期までの成績平均点数（GPA）が2.5以上の学生は95%以上。 3年生では、初等教育実習Ⅱ・Ⅲに関して、所定の単位修得率100%、直前学期の成績平均点数（GPA）が2.3以上の学生は100%、また、保育実習Ⅱ又はⅢに関して、直前の学期までの成績平均点数（GPA）が2.5以上の学生は95%以上。 4年生では、初等教育実習Ⅱ・Ⅲ及び保育実習Ⅱ又はⅢの単位修得率100%。</li> <li>・参加率100%。</li> <li>・学生の60%以上が「子どもチャレンジ・ラボ」の活動</li> </ul>

<p>(3) 全学改組の着実な履行</p> <p>(5) 諸活動に関する方針の履行</p> <p>カ 財政の健全化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度の完成に向けて教育課程を着実に履行し、大学及び各学部各学科の教育目標を確実に達成</li> <li>・教育研究の質向上に絶えず努め、顕著な学習成果を達成する</li> <li>・学科定員確保へ向けての取り組み</li> </ul>	<p>働型学習、課題解決型学習のプログラム開発をさらに進めるとともに、学生の学習支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初等教職課程と保育士課程で、幼稚園と保育園、認定こども園への就職を面談や指導によって支援する。</li> <li>・2019年度に向け、教職サポートセンターを立ち上げ、教員採用試験対策、模擬授業、教職課程履修相談等を行う。当面は、学科内で試行し、2019年度以降、正式な発足を目指す。</li> <li>・専門業者による公務員対策講座とは別に、学科教員による公立保育士採用試験の専門教育対策、実技（ピアノ）試験対策を実施する。</li> <li>・2018年度入学生の教育課程が着実に履行され、学科の教育目標を確実に達成しているか確認する会議を開く。</li> <li>・2019年度に向け、教職課程における再課程認定の書類を作成する。</li> <li>・保育士課程のカリキュラムを改定する。</li> <li>・「学生による授業評価アンケート」で、質問項目15全てが全学平均を上回るよう、授業改善を図るとともに、面談等を通じて、学習意欲等を喚起し、評価の向上に努める。</li> <li>・3年生に対する「卒業研究プレセミナーⅠ・Ⅱ」及び4年生に対する「卒業研究セミナーⅠ・Ⅱ」の指導を充実し、成績評価の向上を図る。</li> <li>・高校への出前授業や学内ガイダンス等の提供回数・実施回数を維持する。</li> <li>・入試課と連携し、学科独自の高校訪問を実施する。</li> <li>・2019年度からの山陽女学園高等部「子どもコース」開設に合わせ、授業等の連携を行う。</li> </ul>	<p>に参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園と保育園、認定こども園への就職希望者の就職率100%。</li> <li>・広島県及び広島市小学校教員採用試験合格率75%以上。</li> <li>・試験対策講座を12回行い、実施合格者数5名以上。</li> <li>・教育課程と教育目標を4月に再確認するとともに、各学期の途中と終了時の5回、会議を開き、検証する。</li> <li>・書類の作成と提出（100%）。</li> <li>・カリキュラムを改定（100%）。</li> <li>・回答率90%以上。</li> <li>・質問項目全てが全学平均を上回る（100%）。</li> <li>・授業改善目標提出100%。</li> <li>・「卒業論文」の評価が、10段階で8以上の学生を70%以上。</li> <li>・中国四国保育学生研究大会で優れた卒業論文を発表。</li> <li>・学科教員一人3回以上提供。</li> <li>・高校訪問全体で、学科教員一人各6回以上。</li> <li>・2021年度の「子どもコース」完成に向け、授業等実施計画を作成。</li> </ul>
<p>(1) 教育理念の実現</p> <p>(2) ライフキャリア教育の構築</p> <p>(3) 全学改組の着実な履行</p>	<p>【共通教育部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぶれない個」を形成する教育の確立</li> <li>・「多様な価値観・生き方」を形成する教育の確立</li> <li>・「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立</li> <li>・一生涯を視野に入れた教育プログラムを構築し、自らライフキャリアを築いていくための基礎力を育成する</li> <li>・2021年度の完成に向けて教育課程を着実に履行し、大学及び各学部各学科の教育目標を確実に達成</li> </ul>	<p>①基礎科目・ライフキャリア科目について、担当者間による中間評価、最終評価を行い、学生への教育内容の改善・構築に努める。</p> <p>①「女性とライフキャリア」での教育効果をより高めるため、キャリアプランニング等他科目との整理を行い、運営に向けた授業内容の最終確認を行う。</p> <p>②「キリスト教の時間」招聘講師の講話について、基礎科目やライフキャリア科目で教材として取り上げる。</p> <p>①学務委員会と連携し、基礎科目、ライフキャリア科目の課題抽出、改善のための会議を行う。</p> <p>②自己評価アンケートの結果を分析する。</p>	<p>①授業への満足度評価のうち、「全くそう思わない」および「そう思わない」の合計を2017年度より減らす。</p> <p>①9月完成を目途にする。</p> <p>②共通教育部門の方針として共有し、全学に発信する。</p> <p>①教育改善に関する部門会議を半期2回以上開催する。</p> <p>②各科目に対する学生の自己評価2以下の学生を2017年</p>

<p>(5) 諸活動に関する方針の履行</p> <p>c 進路支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究の質向上に絶えず努め、顕著な学習成果を達成する</li> <li>・ライフキャリア構築をめざすキャリア教育の実施</li> </ul>	<p>③学習成果の評価指標を検討する。</p> <p>④各科目の不合格・失格者を減らすため、出席状況や履修状況で問題のある学生は速やかに学科・チューターおよび教務課と連携をとる。</p> <p>⑤全教職員、学生を対象に、授業内容の発表の場（英語で学びのポスターセッションなどを行う）を検討する。</p> <p>①担当科目における、アクティブラーニングを実施する。部門会議で報告し合い、課題の発見・改善を図る。</p> <p>①ライフキャリア特別講義、ライフキャリア特別セミナーにおいて、キャリア教育につながる授業実施を検討する。</p> <p>②学務委員会と連携し、基礎科目、ライフキャリア科目の課題抽出、改善を行う。</p>	<p>度より減らす。</p> <p>③アチーブメントテストで、50%の学生がプレースメントテストから10%（4点）の上達を目指す。</p> <p>④各科目の不合格・失格者を2017年度より減らす。</p> <p>⑤授業発表会を実施する。</p> <p>①教育改善に関する部門会議を半期2回以上開催する。</p> <p>①授業の開講する</p> <p>②学務委員会で抽出した問題を解決するための会議を行う。</p>
<p>(1) 教育理念の実現</p> <p>(2) ライフキャリア教育の構築</p>	<p>【言語文化研究科】</p> <p>【人間生活学研究科】</p> <p>本研究科には現在、健康を崩して修了延期となっている1名のほかに在籍する院生は存在しない。まずこの1名の院生ケアのための事業計画1点を冒頭明記し、2019年度以降の早めに定員充足する対策手段に関してはその後明記の事業計画内に具体的に含ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士課程2年生（1名）の、修了する方向を目指させ指導するのか、それとは別の道へ向け指導するのか、本人の人生にとってより善い選択指導の模索を図る</li> </ul> <p>本研究科は、生活文化学専攻と生活科学専攻により内部構成されており、生活文化学専攻には生活経営、生活文化、生活造形という専門群を、生活科学専攻には健康形成、健康管理、生活環境、地球環境という専門群を擁し、両専攻とも、教育職員免許状〔専修免許状：家庭〕の課程を有し、一級建築士受験資格の実務経験認定のプログラムを有する。こうした内容保持の根は4年制の本学学部人間生活学部であり、今後とも人間生活学部との接続の意義はプラス理解したい。したがって、原則的には、今後はさらに、本研究科修学者には学部修学4年を経て（その後になんらかのキャリアを経た場合も）プラス修士課程2年を加えるごとき6年制的イメージを抱けるよう、学部とのつよい連動メリットを顕在的に意識させる（このことは本研究科の定員以上確保を目指す募集活動の取り組みのひとつとなる）べく具体策企図する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぶれない個」を形成する教育の確立</li> <li>・「多様な価値観・生き方」を形成する教育の確立</li> <li>・「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立</li> <li>・一生涯を視野に入れた教育プログラムを構築し、自らライフキャリアを築いていくための基礎力を育成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導進捗管理を行なう。そのために担当指導教員には研究科委員会において当該学生指導状況等報告できるよう議題に掲げる</li> <li>・この私とこの世界とがともに善きものとなっていくことを目指す「ぶれない個」を形成する教育、「多様な価値観・生き方」を形成する教育、「寛容と協働の精神」を育成する教育の確立のため、（とぼしい数の院生しかいない現状の）2018年度におけるより具体的な手段として、本教育の確立を予定できる容器（教員とカリキュラム等）の前提的整えに焦点を絞る</li> <li>・大学院という制度は、一生涯を視野に入れた教育プログラムの有効な一存在として具体的に機能しており、本研究科はもちろんそうであり、すでに最低限以上には組織構築されていて、すでに最低限の育成準備できているにもかかわらず、本学の学部卒業見込み学生等や卒業生等においてさえ、本研究科進学機運を生み出せていないので、まずは本学の学部在学学生及び卒業見込み学生や卒業生に本研究科説明会に参加してもらえよう、パンフレット配布や教員推薦等を強化する。</li> <li>・顕著な学習成果を達成させるため、教育研究の質向上を目指すうえで、前提として、教員組織地盤固めが必須であるが、本研究科にあっては、2017年度に開始している教員審査をさらに本年度も進めたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記した手段を研究科委員会において〈毎回遂行〉することがここに数値明示できる唯一具体的目標である（この件の場合、本学経済的経営にプラスになるための数値目標は、善き教育機関として明示できまい）</li> <li>・本研究科教育を求め要請する需要が生まれるべく、2専攻内の諸専門群、専修免許状の課程、一級建築士受験資格の実務経験認定プログラム、それぞれが学部ときちんと連動しつつ容器として整っているかを点検、年度内の不備改善、今後のさらにもとめたい充実化の新たな方向等提案すべく、年度間研究科委員会（計約10回程度）において〈少なくとも5回、上記案件議題上程〉する</li> <li>・学部構成教員の一部が大学院構成教員であり、2018年度は学部改組開始年度ゆえ、2018年度大学院への大幅な注力は抑制せざるをえないため、定員（生活文化学専攻6名、生活科学専攻6名）の確保はすぐには不可能であろうから、2018年度においては翌年度進学において、まずは〈各専攻1名以上の進学者確保〉する</li> <li>・2017年度には設置基準上最低限必要な程度の（「〇合」、「合」、「可」）審査に留めたが、2017年度にできなかった教員分を本年度内に審査完遂する</li> </ul>

<p>(5) 諸活動に関する方針の履行</p>	<p>(1999年4月に本研究科(生活文化学専攻、生活科学専攻)は開設し、自らライフキャリアを築いていくための力をつけようとする院生を育成し始めた。初期の院生の多くが学外で専任で働きながら同時に大学院で学ぶ者たちであった。2019年4月は研究科開設20周年にあたる。その記念すべき2019年度は、本研究科へそうした進学者を導き、その翌年度2020年度に本研究科進学者を1年度定員に限りなく近づける。2018年度はそのための準備年度と位置づける。)</p> <p>・教育研究の質向上に絶えず努め、顕著な学習成果を達成する</p>		
<p>(1) 教育理念の実現</p>	<p><b>【宗教教育】</b></p> <p>・「ぶれない個」を形成するキリスト教教育の確立</p> <p>○建学の精神の共有</p> <p>・「キリスト教の時間」と「木曜日チャペル」について、建学の精神との対峙を通して「ぶれない個」を確立するための場であるという位置付けをより明確にし、全学の学生および教職員に共有を求める。多様な講師の多様な生き方に出合うことで、「多様な価値観・生き方」や「寛容と協働の精神」についても学びつつ、これらの講師に通底する、人生や人類普遍の価値に対する誠実さに触れることによって「ぶれない個」の涵養を目指す。</p> <p>・「キリスト教入門」やライフキャリア科目のキリスト教関連科目においては、単なる教義やキリスト教思想の紹介にとどまらず、歴史や、具体的な現実社会の諸課題においてキリスト教が果たした功罪を学び、自らに引き寄せて考えるよう促すアクティブ・ラーニングを実践することにより、一人ひとりの学生が、キリスト教的価値観との対話の中で、「ぶれない個」を見出すとともに、「多様な価値観・生き方」や「寛容と協働の精神」を涵養するよう導く。</p> <p>・宗教センターにおける多様な活動をさらに広げ、上記の目標をより効果的に達成するための支援とする。</p>	<p>1. 「キリスト教の時間」の充実</p> <p>1) 提供内容の充実</p> <p>宗教委員会において精選した講師の招聘。</p> <p>①聖書が内包する豊かなメッセージを、学生の現状・ニーズに合わせて語って下さる牧師・キリスト者など。</p> <p>②平和・人権・国際・女性に関する諸活動において、顕著な働きをしておられる様々な方。</p> <p>③上記に関してとくに、社会的に広く意義が認められる活動をしておられる卒業生。</p> <p>上記3項目にあてはまる講師を多様に幅広く迎えるほか、各学期に学生による発表の場を設ける。</p> <p>2) マナー教育</p> <p>①「聴く」姿勢づくり、初年次からの本学らしいマナー教育の場とする。また、傾聴を通しての人格形成および多様で豊かなキャリア観形成の場とする。</p> <p>②丁寧な説明に基づく納得感を伴った、私語と居眠りの根絶。</p> <p>3) 学内広報</p> <p>①学生に対しては「チャペルだより」配布と、「キリスト教入門」その他の授業での活用。教職員に対しては大学評議会や事務協議会を通してのプログラムの位置付けの説明。</p> <p>②学生の多様なアイデアに基づく広報の展開。なかでも2016～2017年度において生活デザイン建築学科のご協力を得て行われたポスター掲示を継続する。</p> <p>③上記を通し、学生と教職員により幅広い理解と協力を求める。</p> <p>4) 共通教育部門を通じた、全学共通科目との連携。</p> <p>2. 「木曜日チャペル」のさらなる充実</p> <p>・従来どおり教職員・学生による多様な発表の場であることは維持しつつ、発表者には発表内容と聖書やキリスト教とのかかわりについて触れていただくことによって、学校礼拝としての位置づけをより明確にすることを旨とする。</p> <p>・「木曜日チャペル」の学内での位置付けの明確化</p>	<p>・「キリスト教の時間」への学生の出席率アップ</p> <p>2017年度平均 85.6%⇒2018年度目標 88%</p> <p>・「キリスト教の時間」への教職員の出席率アップ</p> <p>2017年度平均 11.5名⇒2018年度目標 15名</p> <p>・各期にボランティア発表会、後期に児童教育学科1年生による「こどもさんびか」発表会を実施。</p> <p>・チャペルだより年3回発行。</p> <p>・宗教センターハンドブック発行(新入生に配布)。</p> <p>・毎週のポスター掲示(チャペル、ヒノハラホール等)。</p> <p>・「木曜日チャペル」への学生の出席率アップ</p> <p>2017年度平均 24名⇒2018年度目標 27名</p> <p>・「木曜日チャペル」への教職員の出席率アップ</p> <p>2017年度平均 14名⇒2018年度目標 17名</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016～2017年度も行ったポスター掲示による宣伝をさらに充実させる。</li> <li>3. 授業における展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>キリスト教関連の授業を通して、常に学生が「ぶれない個」の形成というテーマに触れる機会をつくる。</li> <li>1) 全学必修科目「キリスト教入門Ⅰ・Ⅱ」の授業改善</li> <li>2) ライフキャリア科目におけるキリスト教関連科目の内容充実</li> </ul> </li> <li>4. 宗教センター活動の拡充 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 従来行ってきた「8.6 平和学習プログラム」、「ピーススタディツアー」、「聖歌隊」などの活動を継続し、「ぶれない個」の形成を意識したプログラムとして再定義する。</li> <li>2) カルト対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カルトおよびその対策に関する情報収集を強化する。</li> <li>・学生および教職員への有効な情報提供を行う。</li> <li>・他大学との連携において本学がリード役を担う。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>5. 効果の検証 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の取り組みについて、2018年度は、2017年度に試行したアンケート調査を1年生の「キリスト教入門」全クラスに取り入れ、ルーブリック評価と連携させる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8/5-7に「8.6 平和学習プログラム」を実施。</li> <li>・2019年2月 or3月に、長崎を目的地に「ピーススタディツアー」を実施。</li> <li>・諸行事や演奏活動に向けて聖歌隊の活性化。</li> <li>・講演会と情報交換会を2018年5月8日（火）に実施予定。</li> <li>・授業内での実施を目論み、シラバスに明記した。</li> </ul>
<p>(4) 内部質保証の実質化</p> <p>(5) 諸活動に関する方針の履行 ア 学生支援</p>	<p>【教育課程・教育成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果を可視化するための指標（ルーブリック評価の達成度等）を設けて教育の達成度を常時モニターする</li> <li>・ライフキャリア構築をめざすキャリア教育の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ルーブリック評価作成と運用の定着について、引き続き教員への働きかけを行う。</li> <li>②3つのポリシーやカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの見直しを行う。</li> <li>③学務委員会を通じて、ライフキャリア構築への教育内容になっているかについて、カリキュラム・マップ等を踏まえ振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①シラバス・ルーブリックの活用に関するワークショップを1回以上開催する。</li> <li>②3つのポリシーやカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの検討を学科毎に1回以上行う。</li> <li>③課題抽出・改善のための、学務委員会を行う。</li> </ul>
<p>(5) 諸活動に関する方針の履行 カ 財政の健全化</p>	<p>【学生募集・入試制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動を充実させて、広島女学院大学ブランドを確立していく。</li> <li>・入試制度の改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランディング計画の策定に向けた現状把握と分析を行う。</li> <li>・2017年度より継続的にAO入試の改革、指定校の拡充、外部試験・資格の成績利用の導入とする。また、将来的に高大接続を含めた入試制度を検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度の改組における2学部5学科から導き出されるブランディング計画の策定として、「リベラルアーツ教育」、「グローバル教育」、「キャリア教育」や「ライフキャリア」、「エンパワーメント」などの具体的な特長を実践的な事例から把握し分析する。</li> <li>・AO入試に関してはオープンセミナーの成績をオープンセミナー入試に加えて、公募制入試でもオープンセミナー方式として活用する。指定校の拡充では、大分県、沖</li> </ul>



			<p>縄県などの高校を追加する。外部試験・資格の成績利用では、その種類を追加し、また傾斜配点を検討する。また、高大接続に関する案件については、進徳女子高校、広島国際学院高校、山陽女学園高等部との高大連携をもとに検討していくこととする。</p>
<p>(5) 諸活動に関する方針 カ 財政の健全化</p>	<p>【広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報体制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TVCM 新規製作</li> <li>・ HP コンテンツの充実</li> <li>・ HP への導線強化</li> <li>・ 研修会等に参加し職務能力向上を図る。</li> <li>・ 広告から教育実践の情報公開に向け発信力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度製作目的を踏襲し、本学への関心、認知度を高めることを主眼とする。広島県を重点地域として放映投下量 500GRP を基準とする。</li> <li>・ 動画コンテンツを増やす・</li> <li>・ WEB 広告を活用し HP への導線強化を図る。</li> <li>・ 大学公式 SNS を活用した情報発信を活性化する。</li> </ul>
<p>(5) 諸活動に関する方針 ア 学生支援</p>	<p>【修学支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育のユニバーサルデザイン化の推進</li> <li>・ 障がいのある学生への合理的配慮の提供</li> </ul> <p>・ 課外における学修支援体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2016 年 4 月 1 日の障害者差別解消法施行により、本学においても、障害のある学生の差別的取り扱いの禁止(法的義務)、合理的配慮の不提供の禁止(私学においては努力義務)を遵守し、教育のユニバーサルデザイン化に着手する。合理的配慮の提供として、授業における情報保障を実行する。また、障がい学生のための相談支援体制を整備する。</li> <li>①アカデミックサポートセンター(ASC)での支援体制の充実を図る。</li> <li>②ASC が把握する学生の課題を、関連学科・部署へつなげる体制の構築を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい学生支援室における障がい学生の個別面談を行う(月 1 回以上)。</li> <li>障がい学生支援に関するカンファレンスを月 1 回、障がい学生支援室、学生課、教務課、健康管理センター、カウンセリングルームの合同で行う。</li> <li>① ②学期ごとに課題の抽出を行い、学務委員会に報告する。</li> </ul>
<p>(5) 諸活動に関する方針 ア 学生支援</p>	<p>【生活支援・国際交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアセンターの機能強化</li> </ul> <p>・ ボランティア活動の奨励・推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任職員体制の復活で、対外的なアプローチを強めつつ学内調整の迅速化を進める。</li> <li>・ ボランティアセンターをサポートする学生を組織し、ボランティア活動への学生の主体的関与を高める。</li> <li>・ 大学あるいは学部(人間生活学部)と東区社会福祉協議会との連携を強化するための橋渡しの役割を果たす。</li> <li>・ 地域連携センターと連携しながら、地区社協のノウハウや情報、調整力と大学の持つ知的資源と人的資源を円滑に交換することで、地域社会における大学の認知度をさらに上げる。</li> <li>・ 地区社協のプロジェクトに学生を参加させ、社会への広い視野と学外の人的ネットワークを持たせることで、豊かな学生生活づくりに貢献する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな担当職員が、学科との意思疎通機能を高めながら、学生との信頼関係を着実に築けるよう課として十分な教育とサポートを提供する。</li> <li>・ クラブ・サークルに準じる学生の集まりを形成し、学生の意見を取り入れつつセンター運営の一翼を担わせる。「私たちのボランティアセンター」という意識を持たせ、時には学生ボランティアの代表としての役割を演じさせる。学生サポーターの目標は 10 名。</li> <li>・ 東区社協との連携協定を締結する。</li> <li>・ 次年度、大学幹部(副学長か事務局長)を東区社協の理事に就任させる。</li> <li>・ 有志学生と 4・5 月に東区社協を訪問する。また社協の研修や会合に最低 5 名学生と参加し、学生と地区社協との橋渡しを積極的に行う。</li> <li>・ 東区社協主催のプロジェクト企画「青少年福祉体験講座」への最低 3 名参加するよう学生に働きかける。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流の活性化</li> <li>・ACUCA 加盟大学との協定</li> <li>・奨学金制度の充実</li> <li>・学生の心身の健康を維持するための相談・支援機能の充実</li> <li>・各種ハラスメントへの相談・解決機能の強化</li> <li>・クラブ・サークル活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の学部学科に偏らない国際交流活動を促進させる。</li> <li>・地理的に遠い欧米ではなく、ASEAN 経済圏の大学との交流を促進し、学生が多様な価値観を学べる機会を提供する。</li> <li>・ACUCA のネットワークを最大限に活用し、大学が模倣できないユニークな国際交流を展開する。</li> <li>・給付型奨学金や貸与型奨学金の返済を支援する制度を創設する。</li> <li>・健康管理センター、障がい学生高等教育支援室、カウンセリングルームの連携を充実させ、支援や配慮の必要な学生に十分なケアを提供する。</li> <li>・各種ハラスメントに対する相談しやすい環境づくりを作る。</li> <li>・学内外の認知度を上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度幼児教育心理学科や児童教育学科においても海外フィールドワークが実施できるよう準備を整える。</li> <li>・ACUCA の SMS(Student Mobility Scheme)を通じて 1 名以上の留学生を受け入れ送り出しを実現させる。</li> <li>・すでに交流のある Miriam College (フィリピン) に加え、STIKS Tarakanita (インドネシア)、Lady Doak College (インド) の 3 女子大学との協定を締結し、アジアのキリスト教系女子大学との深いつながりを築く。そのために現地へ赴き治安状況や生活・教育環境を調査する。</li> <li>・次年度に向けて給付型奨学金あるいは貸与奨学金の返済支援制度等整備し予算を確保する。</li> <li>・非常勤カウンセラーの通年配置 (週 1 回) を増強する。</li> <li>・相談窓口の多くを占める学生課に、気軽に相談できることを示す掲示等を行い、学生への周知を図る。</li> <li>・どんな細かなことでもクラブ・サークルの活動をできるだけ大学発信のメディアで取り上げるよう配慮する。</li> <li>・大学として特に広報的価値があると思われるクラブ・サークルへは特に援助を厚くする。そのための学内的な根拠を整備する。</li> </ul>
<p>(5) 諸活動に関する方針 ア 学生支援</p>	<p><b>【キャリア支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフキャリア構築をめざすキャリア教育の実施</li> <li>・学生の個性に応じた進路・就職支援</li> <li>・キャリア・カウンセリングの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフキャリア科目「キャリアプランニング」の運営に協力するとともに、来年度開講の「女性とライフキャリア」の実施計画の策定に参画し、本学のライフキャリア教育の構築に寄与できるようにする。</li> <li>・専門科目の授業とライフキャリアの関係 (社会とのつながり) を、学生が自ら見出せるよう個別面談や学科との連携を通じて支援していく。</li> <li>・学生との面談をさらに充実させる</li> <li>・就職率の向上をめざす</li> <li>・各学科と連携した取り組み (キャリアプランニングを含む) をさらに充実させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生全員に 1 人 3 回の面談を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 回目 (3 年次 4 月～ 7 月) : 進路登録票①にもとづく面談</li> <li>2 回目 (3 年次 7 月～10 月) : 進路登録票②にもとづく面談</li> <li>3 回目 (3 年次 11 月～2 月) : 履歴書にもとづく面談</li> </ul> </li> <li>・全学の実就職率 95%、進路決定率 100%を目標とする。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生を対象とした面談（カウンセリング）、就職先での人事担当者との面談、就職先への調査等を計画し、試行的に実施する。</li> </ul>	
<p>(5) 諸活動に関する方針の履行 ウ 教育研究等環境の整備</p>	<p>【教育研究環境（施設設備）】</p> <p>昨年同様厳しい財政状況であるが、本年度も第二次中期計画に沿って施設設備の改修、修繕を中心に施設設備の整備、ICT化に対応していく。特に卒業生からの要望が高く、身近な設備であるトイレの改修を人文館においておこない快適な学生生活が過ごせる環境を整備する。</p> <p>また、昨年から進めている校内環境の整備の一環で、大学正門周辺の整備を始めているが、校内の植樹整備等もあわせておこない学内の緑化を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文館トイレ改修</li> <li>・大学正門周辺整備および校内環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計業者選定の後、仕様書作成、入札、施工業者選定を行う。</li> <li>・大学正門周辺整備については、施工業者である大林組で進める。なお、歩道整備に伴い宅地造成許可申請が必要か否かを施工業者と打ち合わせる。また、外構・正門周辺の植栽設計についても校内環境整備とあわせて進める。</li> <li>・昨年同様、協力会の支援を得て学内に桜の木の植樹をおこない、キャンパスの美化推進に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度中に完了し、利用できるよう計画立てて行なう。</li> <li>・2018年度夏過ぎには、整備を終えられるよう着工する。</li> </ul>
<p>(5) 諸活動に関する方針の履行 ウ 教育研究等環境の整備</p>	<p>【教育研究環境（図書館）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育環境の整備（図書館等）</li> <li>・図書館見学ツアー及び図書館ガイダンスの充実</li> <li>・3・4年生対象「卒論のための文献ガイダンス」の充実</li> <li>・Hiroshima Active Library 協働事業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生対象の前期必須科目「初年次セミナー」では、授業1コマ分を用いて、図書館職員が「図書館見学ツアー」と「図書館ガイダンス」を実施しており、学生の理解度を高めるためにパワーポイント画面の内容修正をし、説明時間を短縮することにより実体験時間を増やす。</li> <li>・ガイダンスの定員を30～40名に設定し、少人数制で実施することにより、学生の理解度を高める。</li> <li>・昨年度同様欠席者へのフォローを強化する。</li> <li>・図書館職員と教員が連携して、各学科のゼミガイダンスを充実させる。昨年度行った「ゼミガイダンスの実施状況」アンケート集計結果によると、ほとんどの教員が独自にゼミガイダンスを実施しており、図書館職員によるガイダンスについては、国際教養学科が4件、幼児教育心理学科が2件、管理栄養学科が1件であった。2018年度はアンケート集計結果を基に教員と連携して、ゼミガイダンスを実施する。</li> <li>・広島県内の公共図書館と大学図書館が同一テーマの事業（主に展示）を同時期に協働して実施している。図書館職員が教員と連携し、授</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書館ガイダンス」の説明時間を短縮し、「パスワード設定」や「実際にOPACを利用して、書架に本を探しに行く」時間を増加することにより、受講者が自分の探したい資料を100%的確に探し出せるようになることを目標とする。</li> <li>・4月25日（水）、5月2日（水）、5月9日（水）、5月16日（水）、5月23日（水）、5月30日（水）の「初年次セミナー」終了後に教員から欠席状況を確認し、図書館職員がガイダンスを個別に実施し、ガイダンス受講者100%を目指す。</li> <li>・3・4年生対象のガイダンスの時期が4月から5月に集中するので、教員と図書館職員が連携することにより、各学科のゼミガイダンスを100%実施し、4年生全員が文献検索方法を周知することを目標とする。</li> <li>・Hiroshima Active Library 協働事業の2018年度のテーマは「スポーツ」なので、本学の展示テーマは「スポー</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子ジャーナル・電子書籍管理ツール「Full Text Finder」とデータベース「Academic Search Complete」の業者による講習会の充実</li> <li>・図書館 1 階自由PCコーナーのパソコンとプリンターの新規導入に伴う学修環境の整備と図書館の活性化</li> </ul>	<p>業の中で、展示に使用する模型やポップ等を学生に作成させ、テーマに関する 内容や書籍等の関心を深め、図書館の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 年度に電子ジャーナル・電子書籍管理ツール「Full Text Finder」とデータベース「Academic Search Complete」の業者による講習会を 12 月 1 日に実施したが、参加者は図書館職員と図書委員合わせて約 10 名であった。本学の教職員と学生を対象に業者 EBSCO による講習会を広報し、より多くの利用者が参加することにより研究・学修の幅を広げる。</li> <li>・2016 年度に実施された「卒業生アンケート」の自由記述に記載された改善要望に基づいて、2017 年度の 3 月に図書館 1 階の自由PCコーナーに 24 台のパソコンと 6 台のプリンターを新規導入した。2018 年度は図書館のサーバーと大学のサーバーをつなぐ「スイッチングハブ」を新規購入することにより図書館の情報環境を改善し、学生のより良い学修環境を整備することを目指す。これに伴い「ラーニング・アドバイザー」のパソコン使い方講座等をより強化する。</li> </ul>	<p>ツと栄養（予定）」とし、生活デザイン学科や管理栄養学科の教員と連携し、授業の中でテーマに関する書籍の選書や展示に使用する模型やポップ等を学生に作成させる。 この体験により、学生がテーマに関する内容や書籍への関心を深め、公共図書館や他大学図書館の展示等にも興味を持ち、図書館の活性化につながることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館が教員と連携し、新学科の「国際英語学科」をはじめ多くの教員、学生に講習会について広報し、参加者の増大（約 20 名以上）を図ることを目標とする。</li> <li>・学修環境を整備し、「ラーニング・アドバイザー」のさらなる強化により、入館者数、昨年度比、5%アップ（約 3000 人）を目標とする。</li> </ul>
<p>(5) 諸活動に関する方針の履行 ウ 教育研究等環境の整備</p>	<p>【教育研究環境（研究環境・研究倫理）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部資金獲得の奨励・支援 科研費説明会（9 月）と、申請者への個別対応、産学連携のための「シーズ集」、科研費「研究活動スタート支援」</li> <li>・研究倫理遵守の徹底 公的研究費の不正使用、研究 II おける不正行為についての説明会の開催と、「グリーンブック」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費説明会を実質的なものとするとともに、個別的な対応を行う。個別対応は今も行っているが、予約制として、時間を確保し、文学館 1 階、旧総合研究所にて行う。2016 年後期から開始された、新制度による本学特別研究助成を、科研費採択に特化した助成とする。2017 年発刊した産学連携のための「シーズ集」（第二）を作成する。4 月赴任の教員に、科研費「研究活動スタート支援」を紹介する。</li> <li>・公的研究費の説明会（6 月）、科研費応募要領の説明会（9 月）において、公的研究費の不正行為、研究における不正行為について、説明する。「グリーンブック」については、現在職教員は全員修了したので、4 月赴任の教員に受講を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費応募件数 10 件、新規採択件数 4 件</li> <li>・科研費「研究活動スタート支援」採択件数 1 件</li> <li>・産学連携に関する会議等に 1 度は出席する。</li> <li>・公的研究費の説明会への出席率 受給者の 100%出席</li> <li>・科研費応募の説明会への出席者数 20 人</li> <li>・新任教員全員の「グリーンブック」修了</li> </ul>
<p>(5) 諸活動に関する方針の履行 ウ 教育研究等環境の整備</p>	<p>【教育研究環境（情報環境）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Wi-Fi 環境の充実</li> <li>・情報機器の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Wi-Fi 機器をストレスなく利用できるように回線の速度、経路等を検討する。</li> <li>・第二次中期計画の行動計画に沿って、教室の整備のためのソフト・ハード構成等の仕様書及びPC教室のパソコン台数等を年度当初までに固め、情報管理委員会で検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メガエッグ回線をベストエフォートの 100Mb から 1 Gb に帯域を上げることにより、学生が BYOD (Bring Your Own Device) の機器を図書館等で Wi-Fi 接続で高速で利用できる環境を整備し利用促進を図る。</li> <li>・PC 教室 6 教室を夏期休業期間中には整備を終え、後期</li> </ul>

		また、学内の基幹 SW-HUB を高性能の機器に更新し、ネットワークの安定稼働を図る。	からは稼働させ
(5) 諸活動に関する方針 の履行 エ 社会連携・社会貢献 の推進	【社会連携】 ・地域連携センターの位置づけを明確にし、組織体制を整備 ・地域連携の強化  【社会貢献】 ・地域社会のニーズにあった公開講座・セミナー等の開催	① 地域連携センターの活動を整理し、組織体制のあり方を検討する。  ① 公開セミナー実施に向けた準備を行う。	① 運営のあり方を整理し、10月末を目途に組織体制を構築する。  ① 公開セミナーを年4回実施する。
(5) 諸活動に関する方針 の履行 イ 教員の資質向上  (4) 内部質保証の実質化	【FD活動】 ○教育の質向上に向けての計画の策定と実施 ・FD研修会の実施 ・FD研修会への教職員の積極的な参加の推進 ・学外のFD研修会への参加の推進  ○効果的な授業評価アンケートへの変更と実施 ・授業評価アンケートの回答率の改善 ・授業評価アンケートの方法の改善  ○学内の双方型授業(アクティブラーニング)についての調査	・これまで、行われているFD研修会及びFD・SD研修会を2018年度も継続して行う。具体的には、大学の現状理解に向けた研修会とともに、学生支援方法に関わる研修会や、アクティブラーニングを用いた授業形態に関する研修会を実施し、教員の教育力の向上を図る。 ・前年度同様、FD研修会への参加率を増加させる。全教員がFD研修会に参加するよう、メールやポータル等での連絡、学科会等での周知、各研修会での学科ごとの参加状況の公表を行い、参加率の増加を促す。 ・学外で行われるFDに関する研修会に積極的に参加し、得られた情報を共有する場を設ける。特にFD委員に対して積極的な参加を促す。 ・アンケート回答率を上げるため、前年度に引き続き、学生や教員への周知を徹底して行う。 ・授業評価アンケートの質的効果高めるとともに、より分析に利用しやすいデータが得られるように授業評価アンケートの手法および内容の変更を行う。手法の改善として、各学期で「中間」と「期末」にアンケートを行う手法を試験的に運用し、全学で運用するための基礎情報を得るとともに、全学実施案を作成する。また分析に適した改善として、アンケート項目の更なるスリム化を行う。 ・学内におけるアクティブラーニングの実施状況、成功事例、問題点等をアンケートにより把握し、アクティブラーニングを浸透させるためのプランを作成する。	・年5～6回の研修会を実施する。  ・FD研修会への参加率を90%以上を目標とする。  ・各学科で必ず1名、学外のFD活動に参加するように各学科に促す。  ・回答率80%以上を目指す。  ・2019年度の全学運用に向けて、2段階授業評価アンケートの方法および内容を完成する。  ・アンケート結果をまとめ、各教員に結果を公開する。
(5) 諸活動に関する方針 の履行 イ 教員の資質向上	【SD活動】 ・年度当初に2018年度SD年次計画表を作成し、計画的に実施する。  ・業者以外の外部講師の招聘などによるタイムリーで効果的な研修を検討し、職員の資質向上を目指す。 ・他大学の職員との交流を可能な限り行う。	・新規採用教職員のオリエンテーションを充実させ、本学の情報提供により業務支援を行うとともに、帰属意識を高める。  ・学外からの講師招聘のための予算措置を行うとともに、法人の研修との連携を行う。 ・教育ネットワーク中国等の外部研修への積極的な参加を呼び掛ける。	・計画に沿って事業実施するとともに、各研修の職員満足度、次年度に向けての要望などのアンケート調査等を行う。  ・新規採用職員に教育ネットワーク中国が実施する新人職員研修への参加を促し、他大学職員とのネットワーク構

			案を図る。
(4) 内部質保証の実質化	<b>【IR】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念実現に向けての学習成果の可視化と検証</li> <li>・ライフキャリア教育構築に向けての学習成果の可視化と検証</li> <li>・学習成果を可視化するための指標（KPI等）を設けて教育の達成度を常時モニターする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改組後の教育目標（ぶれない個、多様性、寛容と協働、ライフキャリア教育）に向けた学習成果を測定・評価できる指標（KPI: Key Performance Indicator）を開発する</li> <li>・KPIにもとづく評価を試行的に実施する。</li> </ul>	
(4) 内部質保証の実質化  (5) 諸活動に関する方針の履行 オ 管理運営体制の整備	<b>【内部質保証】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果を可視化するための指標（ルーブリック評価の達成度、KPI等）を設けて教育の達成度を常時モニターする</li> <li>・自己点検・評価委員会、内部質保証委員会、大学評議会が連携して改善策を実施するPDCAサイクルを実質的に機能させる</li> <li>・教学マネジメント体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務課と連携してルーブリック評価の達成度を測定する指標を開発する</li> <li>・IR委員会と連携してKPIを開発する</li> <li>・教育理念の達成度を点検・評価するための体制づくりを行う</li> <li>・事業報告、卒業生アンケート等にもとづく改善案を策定し、大学評議会で改善に取り組む</li> <li>・教学マネジメント体制のあり方について検討する</li> </ul>	